

SYLLABUS

2025 年度 春学期

4年次

青森公立大学

経営経済学部

目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
卒業研究科目	卒業研究(ACB)	(4)	選必	エシアナ ペネス	1
				江連 敏和	3
				香取 真理	5
				神山 博	6
				丹藤 永也	7
				成田 芙美	8
	卒業研究(教養)			大森 史博	10
				小林 直樹	12
				下村 育世	14
				鈴木 郁生	16
				西村 吉弘	18
				横手 一彦	20
	卒業研究(経営)			池田 享誉	22
				金子 輝雄	23
				紫関 正博	24
				中川 宗人	26
				藤沼 司	28
				行本 雅	30
	卒業研究(経済)			青山 直人	31
				大矢 奈美	33
				河野 秀孝	35
				樺 克裕	37
				木立 力	38
				工藤 恭嗣	39
				黄 年宏	41
				七宮 圭	43
				橋本 悟	45
				卒業研究(地域みらい)	足達 健夫
	生田 泰亮				48
	佐々木 てる				49
	三浦 英樹				50
	安田 公治				52
	長岡 朋人				53

〔科目名〕 ACB 卒業研究 [4 th year]				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目																					
〔担当者〕 Dr. Benneth Esiana						〔授業の方法〕 演習																					
〔演習テーマ〕 Working under the theme “Creating a Resilient Society”, you will have the opportunity to learn about “critical thinking” and “bias”. This will allow you to develop your judgement, evaluation, and problem-solving abilities which you will then apply to conduct a research study on your preferred area of interest. You will present and discuss your ideas and those of others, including data acquisition and analysis, all the while, using English language as a medium of communication.																											
〔演習内容〕 Conducting a research study: process - Writing a research proposal - Writing a dissertation. - Research methodologies (survey etc.) - Data acquisition and analysis - Writing and drawing conclusions - Oral presentation of research outcomes - Discussions I: on selected topics of interest and current affairs to broaden your horizon, improve knowledge base. - Discussions II: Improve ability to communicate one’s ideas in English language through debates, conversations, and oral presentations.																											
〔科目の到達目標〕 Students are expected to gain an understand of, and able to satisfactorily undertake the tasks (1 – 5) listed in the preceding section by the end of their study.																											
<table><tr><td>A</td><td>80点以上</td><td>秀</td><td>当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している</td></tr><tr><td>B</td><td>70点以上80点未満</td><td>優</td><td>当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している</td></tr><tr><td>C</td><td>60点以上70点未満</td><td>良</td><td>当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している</td></tr><tr><td>D</td><td>50点以上60点未満</td><td>可</td><td>当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している</td></tr><tr><td>F</td><td>50点未満</td><td>不可</td><td>当該科目で定められた到達目標を、達成していない</td></tr></table>								A	80点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している	B	70点以上80点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している	C	60点以上70点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している	D	50点以上60点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している	F	50点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない
A	80点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している																								
B	70点以上80点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している																								
C	60点以上70点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している																								
D	50点以上60点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している																								
F	50点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない																								
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕																											
学部				学科																							
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																					
	○	○	○																								
〔前提条件〕 None, although individuals with interests in developing new skills whilst contributing to society are desirable.																											
〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) Writing a research proposal																											

• Debate and discussion sessions • Oral presentations • Dissertation	
[教科書等] Materials and handout will be provided to students	
[実務経歴] Not applicable	
授 業 スケジュール	
時期	テーマと内容
	Please see section [演習内容] for details

〔科目名〕 卒業研究(ACB)				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 江連 敏和 (Toshikazu EZURE)						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 この演習では、3 年次から ACB 演習での討論内容を踏まえたうえで、青森市・青森県はじめ日本各地の地域社会の文化がどう英語圏の国々で受容されうるか、また我々が外国文化をどう受け入れているのか、主にビジネス面から分析する。具体的には、学修者一人一人が設定したテーマに基づき、関連する資料の収集と自分で作成したデータを分析する。その上で、異文化受容の具体的な要件とは何なのか自分なりの考察を4 年間の集大成として一層深める。最後に卒業論文という形でまとめる。							
〔演習内容〕 この演習では、青森市をはじめとした地域社会と日本における英米の文化の受容と日本文化の外国における需要を、主にビジネス面から分析することを目的とする。本学の各科目で学んだ内容を土台にし、そこに自分で作成したデータに分析と論考を加えて、最終的に自分なりの結論を導く。3 年次との違いとして、一連の研究活動、社会活動を通じて、グローバル社会における自分の立ち位置の確認を行うと共に、ビジネス面において、地域社会での異文化交流の在り方、そして本学卒業後に自分の英語能力と異文化理解の向上が地域社会の発展にどう寄与しうるか考える契機とする。							
〔科目の到達目標〕 具体的な目標として、1) 先行研究の調査、2) データ作成、整理、分析 3) 論の立て方など論理的思考を人との対話を通じて育んでいく。過去には日本の人気マンガ・アニメ、ゲームの海外でのプロモーションや商機の比較、青森市の交通システムと新たな都市計画の発展、自分の家の夕食献立から見える海外からの影響、などを自分自身が考えたテーマとして2 年間を通して自律的に研究し、論文にまとめた。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔前提条件〕 普段から英米の文化に関心を持っていること。自分が好きなものについて客観的な見方ができること。 柔軟な思考と粘り強く人の話をよく聞き、説得する誠意を持つ意欲があること。 卒業論文をまとめ、書き上げる気力を保持し続けること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 〔科目の到達目標〕で示した 1), 2), 3) 等の学修・研究活動を通じての成果物および演習授業内での発言や議論における貢献度、卒業論文、毎年度末に開催予定の卒業研究 (ACB)プレゼンテーションを評価材料として点数化し、合算した総合点について以下の基準で評価を行う。卒業論文は単なるページ数ではなく、熱意を感じられるか、論旨が明確であるか、論文全体の論理構成が読み手にとって読みやすいものになっているか等、Academic Writing の基礎に忠実であるかを評価基準に点数をつける。 A: 80 点以上 B: 70 点以上 80 点未満 C: 60 点以上 70 点未満 D: 50 点以上 60 点未満 F: 50 点未満							

〔教科書等〕 教科書、参考書等は適宜、授業内で指示する。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
第 1 週 から 第 10 週	(前期)3 年次 ACB 演習および春休み中に深めた自分のテーマへの理解を授業内で披露、他のゼミ生と共有し、その理解が妥当であるか検討する。教員が適宜、教科書や参考資料の該当箇所を指示する。
第 11 週 から 第 20 週	(中期)卒業論文執筆の準備として、参考資料を学生各自が探し出し、それを用いて簡単なプレゼンテーションを行う。学生は各時、その週の進捗状況を授業内で説明する。他の学生は聴衆となり、その説明内容の論理構成に飛躍や矛盾等がないか活発な議論を通して確認し、互いのテーマへの理解を深める。夏季休暇中においても、自分のテーマに関連する出来事を注意深く観察しておく。余裕がある場合には、論文執筆を始めて、教員に適宜その原稿を見せる。教員はそれに対してよりよいものにするための指導や示唆を与える。
第 21 週 から 第 30 週	(後期)教員からの指導、示唆を参考にして卒業論文を完成させる。卒業論文の指導は主に論理構成や執筆ルールなど就職後のレポートや提案書の作成、大学院での研究や修士・博士論文執筆にも有用な内容を中心に行う。指導完成した卒業論文を元に、卒業研究 (ACB) プレゼンテーションの準備を進める。大切なことは、プレゼンテーションの巧拙よりも、テーマに対する熱意や調査を正確に行う意思、卒業論文での内容を再現しているか、そして学問に対する真摯な態度を常に維持できているか、である。
試験	演習科目のため、定期試験は行わず、演習内での貢献度、進捗レポート、卒業論文、年度末プレゼンテーションの出来などを総合的に点数化し、成績をつける。

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 香取 真理						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 「ことばと文化」をキーワードとし、ことばと文化に関するテーマを中心に調査研究を行う。 また、多様な場面において運用可能な総合的英語力の習得を目指す。							
〔演習内容〕 「ことばと文化」に関わるさまざまなテーマを取り上げ、文献・論文等を読み、考察、分析、ディスカッションを行いながら、卒業研究のテーマを絞り、最終的には卒業論文に研究成果をまとめる。 (例：強い言語、弱い言語、言語格差と経済、メタファー表現、オノマトペ、ことばと社会性、ことわざ日・英比較、通訳・翻訳理論、外国語教育の変遷、など) 同時に、多様な状況で、話題が特定分野にわたっても、適切なコミュニケーションが可能となる英語運営能力を目指す。							
〔科目の到達目標〕 ことばと文化の関係性、関連する歴史・社会や問題等からテーマを選び、各人の計画に沿って、調査・研究を行う。最終的には卒業論文に研究成果をまとめる。同時に、多様な状況で話題が特定分野にわたっても、適切なコミュニケーションが可能となる語運営能力を目指す。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 演習への積極的参加。卒業論文の提出。研究発表会への参加。TOEIC Speaking IP 受験 等から総合判断。							
〔教科書等〕 演習時に示す							
〔実務経歴〕 特になし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4 月～ 9 月	「ことばと文化」について知見を深める。「ことば」とは何か、「ことば」の発達、進化、変化と「文化」との関わりについて参考資料を基に考察を深める。後半には各人研究テーマを決める。同時に、基本的なビジネス英語のフレーズや表現等を再確認しながら、毎回英語スピーキングの練習を行う。具体的には、英語でのインタビュー（面接）練習、ショートスピーチ、質疑応答等の練習を行う。						
10 月～ 1 月	自分のテーマについて、担当教員と相談しながら調査・研究を進める。並行して、英文エッセイの書き方について学ぶ。また、英語でのプレゼンテーション練習を行う。1 月には卒業論文を完成させる。TOEIC Speaking IP を受験する。						
2 月	研究発表会で発表する。 卒業論文の製本。						

〔科目名〕 卒業研究（情報分野）				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 神山 博						〔授業の方法〕 b	
〔演習テーマ〕 情報に関するテーマを学生が自由に選び、それについて1年をかけて調査、研究をおこなう。							
〔演習内容〕 本卒業研究ゼミでは、情報に関するテーマについてじっくりと調査、研究し、論文としてまとめることを目標とする。研究テーマは、個別に教員と相談の上決定する。例えば情報社会における経営情報分野の諸問題、モノのインターネット(IoT)、人工知能(AI)、DX 特に経営・会計分野 DX の現状と課題、生成 AI、等の調査研究。							
〔科目の到達目標〕 経営・経済に限らず現代社会の諸課題を情報の切り口から調査分析、あるいは作品を制作し、卒業論文としてまとめる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔前提条件〕 情報の知識と技術を身につけ、社会人となつてからも活用したいという意欲を持っていること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎回のゼミでの貢献(進捗状況報告、議論への参加等)、学期末に提出する卒業論文等を総合的に評価する。							
〔教科書等〕 参考資料、参考書等は各々の研究テーマや、ゼミの進行に合わせて適宜提示する。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
第1回 ～ 第10回	研究計画書の作成、提出、ゼミでのディスカッション、教員からのアドバイス。 研究計画書の修正、基礎調査(資料の収集)、ゼミでのディスカッション、教員からのアドバイス。						
第11回 ～ 第16回	基礎調査(資料の収集、先行研究の分析、テーマの評価)、 ゼミでのディスカッション、教員からのアドバイス、 テーマの独自性、研究の実行可能性の評価、研究計画のアップデート。						
第17回 ～ 第23回	資料のさらなる収集、研究テーマに沿った調査、分析に必要なデータの収集と分析(分析手法の決定も含む)、ゼミでのディスカッション、教員からのアドバイス、 論文執筆着手(問題形成、先行研究、分析手法等)						
第24回 ～ 第30回	調査継続、データの収集と分析継続、 ゼミでのディスカッション、教員からのアドバイス、分析内容の確認とアップデート、 論文執筆作業継続、最終確認、発表会、論文提出。						
	※行数は適宜、加減してください。ただし全体で2ページ以内に収まるようにしてください。						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 丹藤永也						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 第二言語習得理論に基づく英語教育に関する調査研究 TOEIC のスコア 730 点以上の獲得							
〔演習内容〕 本演習では第二言語習得についての理論を学び、興味のある英語教育に関する分野・領域について個人テーマを設けて調査し、その結果を報告書にまとめる。併せて、テキストを使って TOEIC の演習も行い、重要な表現等を確認しながら、リスニング及びリーディング問題に取り組み、スコア 730 点以上を目指す。							
〔科目の到達目標〕 学年末の段階で、自分の設定したテーマのもと調査、分析を行い、その内容を報告書にまとめ、さらに TOEIC730 点相当の英語力を身に付けていることが目標である。 A (80点以上): 到達目標を大変高いレベルで達成している B (70～79点): 到達目標を高いレベルで達成している C (60～69点): 到達目標を十分達成している D (50～59点): 到達目標を最低限のレベルで達成している F (50 点未満): 到達目標を達成していない							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
〔前提条件〕 第二言語習得や TOEIC に興味・関心をもち、積極的にゼミに参加することができること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・報告書の提出 ・TOEIC の受験または模擬試験の実施							
〔教科書等〕 授業開始時に指示							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4 月 ～ 7 月	・第二言語習得に関する先行研究の調査 ・TOEIC の演習問題 ・自分の調査研究のテーマの決定						
9 月 ～ 1 月	・自分のテーマについての調査、分析 ・報告書の作成、提出 ・TOEIC の演習問題 ・TOEIC の受験または模擬試験の実施						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 成田 英美						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 英語を読む力を活かして、イギリスの歴史と文化について見識を広げる。歴史的な事実やテキスト（文学作品を含む）を中心に、歴史や文化を学問的に扱う方法を実践していく。人間の思考や行動を歴史や文化と結びつけて理解し、深く考察する力をつける。							
〔演習内容〕 イギリスの歴史や文化に関連するテーマを各自が設定し、調査、考察を繰り返し、その結果を卒論としてまとめる。参加者は毎回作業の成果をまとめ、教員だけでなく、他の参加者にも報告し、助言をもらう。自分の課題だけでなく、他の参加者の課題にも積極的に関わることが求められる。							
〔科目の到達目標〕 ・テーマを見つける。 ・テーマに必要な資料を探して集める。 ・資料を読み込む。 ・資料を使いながら自分の考えをまとめる。 ・まとめたことをわかりやすく伝え、質問に応じる。 ・フィードバックを受け、再検討し、卒論を完成させる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔前提条件〕 ・英文を読むための基本的なスキルを身につけていること。 ・イギリスの歴史や文化に関心があること。 ・3年次に「ACB 演習」（担当教員：成田）を履修していることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎回作業の成果を報告する。計画的に作業を進める。秋学期の最後に卒論を提出する。							
〔教科書等〕 教科書は指定しない。必要な資料は参加者と適宜相談して決める。							
〔実務経歴〕 該当なし。							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
	以下の時期は目安。参加者自身が計画を立て、それに沿って作業を進める。						
春学期 前半	興味のあるトピックを選び、関連する資料を収集し、成果を報告する。その作業を繰り返しながら、論文のテーマを絞る。						

春学期 後半	資料収集と成果報告を続けながら、テーマを検討し、決める。各自が論文執筆のスケジュールを組む。
秋学期 前半	論文の構成を検討し、決める。各自が決めたスケジュールに沿って論文を執筆する。
秋学期 後半	書き直しを繰り返しながら、論文を完成させる。

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 大森 史博						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 哲学の諸問題、および隣接する主題領域に関する研究と論文の作成							
〔演習内容〕 時間論、言語論、知覚論、存在論、芸術論、自我論、その他、隣接する分野を主題領域とする哲学の研究。 研究テーマについては、人物、著作、思想、概念、等、それぞれが自身の関心に基づいて、対話をかさねながら焦点化することを目指してゆく。 春学期は、それぞれの関心に応じて基本となる文献を探索し、ていねいに読み解くことを進める。これをとおして、対話をかさね、思索をふかめて、研究テーマの焦点を探る。秋学期は、担当教員の指導を受けながら、研究論文を執筆することが具体的な作業となる。 授業の各回をとおして、研究テーマを設定する手がかり、文献・資料の探索と収集、註や参考文献の作法、全体の構成と目次の作成、といった論文作成の基礎と具体的な方法を教示する。研究と論文作成をおこなう上での困難の克服や解決の方策について共に考えてゆく。							
〔科目の到達目標〕 哲学の基本文献や学術論文を読み解くことにより、そこで主題化される思想、主要な概念、核心にある問いを知る。そうした思想や概念をふまえて、自らが問うべきテーマを吟味し、考察を深め、形式を備えた文章表現として仕上げる。自らの問いを提示し、探求的な対話の場において質疑応答する。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔前提条件〕 担当教員が開講する授業(哲学Ⅰ、哲学Ⅱ、教養特殊講義Ⅱ、名著講読演習、教養演習)のうち、いずれか1科目以上を履修していること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 先行研究の文献探索をふまえた「構想発表」、研究の過程と論文執筆の進捗を報告するための「中間発表」、および提出の「研究論文」と口頭での「研究発表」を総合的に審査し、評価する。							
〔教科書等〕 デカルト『方法序説』(邦訳書が複数ある。) その他、授業のなかで紹介する。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4月 から 6月	デカルトの『方法序説』を精読し、質疑応答をおこなう。これをとおして、参加者の各々は、自分の問い、研究テーマを焦点化していく手がかりを求める。						

7月 から 8月	参加者各々の関心に応じて、研究テーマを定め、基本文献および参考文献を探索する。文献の読解を進めることにより、自身の研究テーマと問題設定の先鋭化をめざす。
9月 から 10月	他の哲学系演習科目の履修者とともに合同の研究会をおこなう。参加者の各々は自分の問いを示して吟味し、相互に探求的な哲学対話を試みる。卒業研究の履修者は、この場において研究の「構想発表」をおこなう。
11月 から 12月	「中間発表」をおこなう。以後、「研究論文」の執筆に関して、担当教員の指導を受けつつ推敲を重ね、仕上げることをめざす。
1月 から 2月	執筆した「研究論文」について口頭での「研究発表」をおこない、質疑応答する。

〔科目名〕 卒 業 研 究				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 小 林 直 樹						〔授業の方法〕 演 習	
〔演習テーマ〕 「 憲 法 に 関 す る 研 究 」							
〔演習内容〕 ●演習の目的 憲法学説および判例を考察し、各自が設定した研究テーマについて知見を深め、卒業論文を作成することを目的とします。 ●演習の内容と進め方 各自の設定した研究テーマについて、調査・報告・対話・議論を行い、対話を通じて理解を深めていきます。もっとも、研究テーマは途中変更をすることも可能ですが、その際には、変更理由や新たなテーマを選定した理由、目的について説明することが求められます。 演習では、必要に応じて海外の文献（英文・英米法）を講読することもあります。そのほか、研究テーマにそった映画やドラマ、ドキュメンタリーを視聴するなど、映像資料の利活用を考えています。 ※演習と関連して、学外における見学・研修を検討しています。							
〔科目の到達目標〕 研究テーマを設定し、調査（新聞記事ほか、学説や判例の調査・検索）のスキル、調査結果報告(レジュメ等作成)のスキル、対話・議論(コミュニケーション)スキルを習得することのみならず、一連の作業を通じて憲法(行政法)学説や判例の知見を深め、憲法を体系的に理解し、最終的に卒業論文を完成させることです。 A 80 点以上 秀 当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している B 70 点以上 80 点未満 優 当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している C 60 点以上 70 点未満 良 当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している D 50 点以上 60 点未満 可 当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している F 50 点未満 不可 当該科目で定められた到達目標を、達成していない							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○		○		
〔前提条件〕 憲法に関する研究を、最終的に卒業論文とすることから、その前提として法学・憲法の基礎的知識が必要となります。まずは、「法律と人間」または「憲法概論」、「民法」のいずれか 2 つ以上を履修済みであることが履修条件となります。 次に、研究対象とその選択理由、研究目的・趣旨について、十分に説明できることも条件となります。 演習は、各個人の研究テーマに関する調査・報告・対話・議論が中心となります。単なる報告のみでは研究テーマの理解の深化につながりません。対話を通じた双方向の演習であるため、他人の研究テーマにも関心を持ち、能動的かつ積極的に研究をすすめる意欲のある人を求めます。なお、人前での発言や発表が苦手な寡黙になりがちでもかまいません。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 演習における「調査、報告・発表、発言」という、課題への取り組み姿勢（レジュメの作成やプレゼンテーション、コミュニケーション）、卒業論文の完成・提出・発表							

〔教科書等〕	
教科書は指定しませんが、必要に応じて、参考図書を紹介します。例として、説明会においてとあげた以下の参考図書を図書館で借りる等してください。	
・ 加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人編著『フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤』（北樹出版、2020） ・ 小林直三ほか『判例で学ぶ憲法』（法律文化社、2022） ・ 芦部信喜・高橋和之補訂『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023） ・ 長谷部恭男ほか『憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕』（有斐閣、2019） ・ 長谷部恭男ほか『憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕』（有斐閣、2019） ・ 弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕 -- How to study the Law』（有斐閣、2016） ・ 近江幸治『学術論文の作法 第3版』（成文堂、2022）	
〔実務経歴〕	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 本演習の目的や趣旨について説明したうえで、法の学び方や憲法の学び方について説明をします。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 春学期の進め方 内 容: 春学期の演習の進め方を説明したのち、卒業研究のテーマについて検討します。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第3回 から 第13回	テーマ(何を学ぶか): 卒業研究のテーマ発表と報告 内 容: 各自が選定した卒業研究のテーマについて発表し、テーマを設定した研究目的や趣旨について発表します。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第14回 ・ 第15回	テーマ(何を学ぶか): 卒業研究の計画 内 容: 春学期に選定した卒業研究のテーマの研究計画を発表します。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第16回	テーマ(何を学ぶか): 秋学期の進め方 内 容: 秋学期の演習の進め方を説明したのち、各自の卒業研究の進捗状況について発表します。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第17回 から 第28回	テーマ(何を学ぶか): 卒業研究の報告 内 容: 卒業研究の進捗状況のほか、内容について発表や質疑応答をおこないます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第29回 ・ 第30回	テーマ(何を学ぶか): 卒業研究のまとめ 内 容: 卒業研究を論文としてまとめ、発表・質疑応答をおこないます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。

〔科目名〕 卒業研究	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 卒業研究科目																						
〔担当者〕 下村 育世		〔授業の方法〕 演習																						
〔演習テーマ〕 近代とはいかなる時代か ——明治以降に変化したモノ・コトを宗教史に着目しながら考える (3) 各自好きなテーマで卒論を書きあげる編																								
〔演習内容〕 宗教にかかわるテーマか、歴史学的方法により、学生が自らの関心に基づいて課題設定を行い、卒業論文を作成する。論文の総字数は、文字資料や画像、図表、参考文献を含めて、40000 字程度を目安とする。 春学期のうちに、論文の書き方について改めて学びなおします。信頼に足る情報資源の検索の仕方なども復習します(4～5 月)。それらを踏まえて、各自のテーマに基づき先行研究を探し、卒業論文で明らかにしようとする問題設定を固めていく(6 月。進捗状況の報告をしてください。共に練っていきます)。夏休みまでに一度、テーマ、問題設定、おおよその目次、全体の流れ、参考文献表を踏まえた中間報告してもらいます(7 月。発表以降、改変をしても構いません)。 秋学期には、上記の報告と夏休みの研鑽を踏まえて、論文執筆の指導を行い、卒業論文を完成させる。どうしてもテーマが見つからない場合には、教員が提供することも考えています。																								
〔科目の到達目標〕 ・図書館やデータベースを利用し、信頼に足る情報検索の方法を理解し、実践できる。 ・正しく引用することができる。 ・参考文献表を作ることができる。 ・他者の意見を理解した上で、自分の意見を述べることができる。 ・研究をするにあたっての一連の手続きを理解する。 ・正確な日本語による論理的な卒業論文を作成できる。																								
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>DP1</td> <td>DP2</td> <td>DP3</td> <td>DP4</td> <td>DP1</td> <td>DP2</td> <td>DP3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3			○	○			
学部				学科																				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																		
		○	○																					
〔前提条件〕 担当教員は今年度から本演習を担当するため、今年度はどなたでも受け入れます。 歴史や宗教に関心があることが望ましい。																								
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) テストやレポート等は課しません。必要に応じて演習に出席すること、レジュメなどを作成し発表することが必須です。議論においては積極的な発言を期待します。																								
〔教科書等〕 村上紀夫『歴史学で卒業論文を書くために』創元社、2019 年。																								
〔実務経歴〕 特になし																								

授 業 スケジュール	
時期	テーマと内容
春学期	テキストを輪読しながら、論文執筆の構想を練る。
夏休み	先行研究の調査
秋学期	卒業論文執筆

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 鈴木郁生						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 実験・調査等を主体とした心理学研究							
〔演習内容〕 心理学とは、人間、そしてその心に関する学問です。そしてその領域は、人間の認知について科学的に研究する認知心理学、心の問題を理解解決しようとする臨床心理学、人と人の関係について考察する社会心理学など、様々です。この演習では、心理学全体を広く理解するというよりも、特定の領域に対する深い理解を求めようと思います。 そこで、みなさんの興味のあるテーマを選び、そのテーマについて1年間じっくり学んでみましょう。 最初は、心理学の様々な分野を紹介しますから、その上でテーマを決めて頂きたいと思います。テーマを決められない場合はこちらから紹介しますので、そのなかで選択して頂きます。 テーマを選んだら、その問題について調べてみましょう。実際に調べてみると、そのテーマについての問題意識が生まれると思います。その問題意識を基に、実際に実験や調査を行い、最終的には論文の形にまとめます。							
〔科目の到達目標〕 心理学の知識をもとに、問題を見つけ、実験・調査を実施し、得られたデータを分析し、考察する力を身につけます。具体的には、自らの選んだテーマについての卒業論文を執筆することが、本演習の到達目標です。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				
〔前提条件〕 原則として、教養演習(鈴木)を履修していること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) まず自らデータを取得することを評価します。その上で、卒業論文の執筆を求めます。 卒業論文においては、その論理性や分析の正確さ、考察の妥当性などを総合的に評価します。							
〔教科書等〕 教科書は使用しません。参考図書は随時紹介します。							
〔実務経歴〕 該当しません。							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4～5 月	研究テーマ決定 先行研究の調査 先行研究の読み込み 研究内容の決定と絞り込み						
6～7 月	構想発表						
8～9 月	実験刺激・調査項目の収集と作成						

10 月	実験計画書作成
	予備実験・予備調査(10 月)
	刺激・調査項目の修正と決定
	実験プログラム・調査用紙作成
	実験機材の設置・調査用紙印刷等の準備
	実験・調査の手順書、セッティング表、教示文等の作成
11 月	最終的な予備実験・予備調査の事前練習
	中間発表
	本実験・本調査
12 月	結果の入力
	データ分析
	追加実験
	結果の考察
	研究論文作成
1 月末	提出

〔科目名〕 卒業研究	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 卒業研究科目				
〔担当者〕 西村 吉弘		〔授業の方法〕 演習				
〔演習テーマ〕 公共政策						
〔演習内容〕 政策に関する研究について、理論と実証性に対する理解を深めることを目的とする。学習における動的過程を経て、第 1 に文献レビュー等の基礎的なスキルを身に着け、学問上必要とされる問いを見出せるようにする。第 2 に、各自が学問を追究する際、「何を追究するのか」、「新たな知見は何か」といった部分にアプローチできることを目標とする。 また、方法論の選定（フィールドワークによる質的研究なのか、理論研究なのか等）、フィールドワークの場合の対象の選定といった研究の基本事項について理解を深める。そして、自身に合った方法論を見出せるように学びを深める。 これらを踏まえ、適宜ゼミの中での発表を通して、他者からの批評を受け、精度を高める取り組みも繰り返し行っていく。自分自身と向き合って、丁寧に学問と対話し、各自の問題関心を見出し、追究していく。 以上の学習の過程を通して、最終的に論文作成を行い、完成後に成果発表まで行うこととする。						
〔科目の到達目標〕 論理的思考力の養成、学術論文の執筆能力の育成。これまで学習した内容、また本ゼミで更に追究した内容を、プレゼンを通してアウトプットできる力を養う。また、質疑応答を繰り返すことで、発表者としては他者からの批評に対する耐性を養い、質問者としては建設的な批評の仕方を学び、相乗効果を伴う「学習する組織」の構築を目指す。「学習する組織」については、P.センゲを参照。						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
	○	○	○			
〔前提条件〕 3 年時に、教養演習を受講していることが望ましい。						
〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 平常点と卒業研究の成果物により、総合的に評価する。						
〔教科書等〕 必要に応じて、適宜配布する。						
〔実務経歴〕 なし。						

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 卒業テーマの検討 内 容: 卒業テーマの検討 教科書・指定図書 必要に応じて、適宜配布する。
第 2 回 ～ 第4回	テーマ(何を学ぶか): 卒業テーマに沿ったプロットの作成 内 容: 卒業テーマに沿ったプロットの作成 教科書・指定図書 必要に応じて、適宜配布する。
第 5 回 ～ 第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 個々の計画に基づく研究と報告 内 容: 個々の計画に基づく研究と報告 教科書・指定図書 必要に応じて、適宜配布する。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 授業の総括 内 容: 半期の学習内容のまとめとふり返しを行う。 教科書・指定図書 なし。
第 16 回 ～ 第 29 回	テーマ(何を学ぶか): 卒業研究に向けた学習 内 容: 論文の執筆・進捗の報告・質疑応答 教科書・指定図書 必要に応じて、適宜配布する。
第 30 回	テーマ(何を学ぶか): 授業の総括 内 容: 学習内容のまとめとふり返しを行う。 教科書・指定図書 なし。

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 横手一彦						〔授業の方法〕 演習	
〔卒業研究テーマ〕 各自が設定する課題。							
〔研究内容〕 各自が設定する課題に基づく研究内容。							
〔科目の到達目標〕 研究論文作成(「調べる」ということ.「研究」ということ.「論文作成」ということ.)。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔前提条件〕 なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 年度末に卒業論文を提出。							
〔教科書等〕 なし。							
〔実務経歴〕 該当なし。							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
四月～ 五月	年間を通じた、研究活動の大凡の話し合い。 研究テーマの設定。 研究内容の大凡の作成。 卒業研究の目次作成(仮の設定.その後に加筆訂正など)。 年間計画書の作成。 知的継承(身体性)と自己表現(言語.史的.知識.技術.生活)の関わり。						
六月～ 七月	参考資料の検索と収集。 参考文献の検索と確認。 関連資料の所在地確認など。 卒業研究に関する実践的活動と成果(例.ゼミ論集『文学雑叢』第1号～第6号)。 先行者に学ぶ 先行研究に学ぶ						

九月～ 一〇月	卒業論文の概略提出。 受講生による意見交換。 中間報告。 卒業論文制作(一)。 全体の再構想。
一一月 ～一二 月	卒業論文制作(二)。 目次の項目立てと各論の展開。
一月	卒業論文制作(三)。 卒業論文提出。

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 池田享誉						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 簿記・会計・財務分析 現実の企業において簿記・会計・財務分析がどのように利用されているかを理解する。							
〔演習内容〕 本演習では、各自が大学で学んだ知識を現実社会でどのように生かすべきかについて社会で働いている専門人との質疑、議論を通じて考察し報告してもらう。							
〔科目の到達目標〕 実際の企業において、大学で学んだ知識をどう生かすかについて、自身の見解を確立し、自身がどのような人生を送りたいのかについて考察する。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 到達目標に対する達成度について、報告内容によって評価する。							
〔教科書等〕 適宜指示する。							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期	簿記・会計・財務分析の専門知識を生かした各自の社会人人生の選択を行う。						
秋学期	簿記・会計・財務分析の専門知識を社会で生かす方法についての報告						

〔科目名〕 卒 業 研 究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 金 子 輝 雄						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 会計学・租税法を中心とする研究							
〔演習内容〕 卒業論文の作成に向けた研究指導を行います。 *就活に配慮します。							
〔科目の到達目標〕 なぜ卒論を書くのか。本学の教育理念は、経営経済分野において、自ら諸問題を発見し、自らの力でこれに対する解決方法を見出すことができる教養ある専門人材の育成です。卒論の作成はその集大成です。研究を通して、より主体的・積極的な人間へと生まれかわれます。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 特にありません。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 卒業論文の内容によりますが、なるべく A 評価となるよう指導します。							
〔教科書等〕 研究テーマに即し文献を探してもらいます。また適宜こちらから紹介します。							
〔実務経歴〕 銀行業及び税理士事務所							
授 業 スケジュール							
時期	テーマと内容						
初回	ガイダンス 進め方、卒業論文の書き方、過去の卒論の紹介。 3 年次末のレポートと類似のテーマでもよい。						
春学期	テーマの選定 ⇒ 関連する情報の検索 ⇒ 関連する文献の収集 ⇒ 文献の熟読 * 就活優先で構いません。出席が不可能であればメールでの相談。必要であれば ZOOM を利用することもあります。						
秋学期	テーマの絞り込み ⇒ テーマはなるべく狭く(広すぎると教科書的な内容となり研究でなくなります) ⇒ 関連する文献・情報の収集、読み込み、検討。 * 個別的に原稿を読ませていただき、適宜、コメントします。3～5 回の個別指導(対面またはメール)。						
完成 卒業時	期限 1 月末。(年内に終わらせる人も多数います。各自完成次第修了) 「卒業論文集」の配布						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 紫関正博						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 卒業論文の作成，財務情報と非財務情報							
〔演習内容〕 「卒業研究」では，卒業論文を作成します。卒業論文の作成に際しては，必要に応じて，教員が指導と助言を行います。ゼミでは，2025 年 5 月の「卒業研究」の時間までに研究テーマを決定し，卒業論文を作成するための研究計画を立てます。これまでに学習した「会計と財務」の専門的知識を活かし，個々の研究テーマに沿って「卒業研究」を行います。 各自の研究の進捗状況に応じて，研究の進捗状況とその内容の報告を行います。報告に際しては，文献や資料などを収集し，それらを読み込んで理解しようとする姿勢が不可欠です。ゼミでの報告と研究を基に，研究成果を卒業論文にまとめます。 企業をより深く理解するためにも，ゼミでは，企業の財務情報と非財務情報に関する話題を時折取り上げる予定です。 ゼミの進捗状況などにより，場合によっては，ゼミ生と相談の上で，演習内容を変更することがあります。							
〔科目の到達目標〕 卒業論文を作成します。次の項目の達成を目標とします。 ①研究テーマの設定と研究目的が的確に述べられていること。 ②研究のレビューが十分に行われ，適切に引用されていること。 ③研究結果が明確に述べられていること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3 ○	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 ・積極的にゼミに参加することが求められます。 ・卒業論文の作成に取り組む意欲があること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・ゼミへの参加と貢献(質疑応答など)，卒業論文を総合して評価する。							
〔教科書等〕 ＜教科書＞ ・伊藤邦雄『新・現代会計入門(第6版)』，中央経済社，2024 年。 (※テキストは変更する場合がありますので，初回の授業で提示します。) ＜参考書＞ ・鈴木義夫・千葉修身 著『会計研究入門―“会計はお化けだ!”』，森山書店，2015 年。							
〔実務経歴〕 なし							

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
第 1 回 ～ 第 4 回	テ ー マ : 研 究 テ ー マ と 研 究 計 画 内 容 : 研 究 テ ー マ の 設 定 と 研 究 計 画 の 作 成
第 5 回 ～ 第 8 回	テ ー マ : 先 行 研 究 と 関 連 文 献 内 容 : 先 行 研 究 と 関 連 文 献 に 関 す る 研 究 レ ビ ュ ー と 研 究 課 題 の 析 出
第 9 回 ～ 第 15 回	テ ー マ : 研 究 課 題 と 研 究 報 告 内 容 : 研 究 課 題 の 検 討 と 研 究 報 告 に 関 す る 質 疑 応 答
第 16 回 ～ 第 25 回	テ ー マ : 卒 業 論 文 の 作 成 内 容 : 研 究 課 題 と 研 究 報 告 に 関 す る 議 論 と 卒 業 論 文 の 作 成
第 26 回 ～ 第 30 回	テ ー マ : 卒 業 論 文 の 完 成 内 容 : 卒 業 論 文 の 完 成 に 向 け た ま と め

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 中川宗人						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 本演習の目的は、経営学科の履修モデル「人間と協働」のなかでも人事管理や雇用システム、働き方や組織と個人、協働といったテーマに関して、自ら学術的な問いを設定し、卒業論文を執筆することです。							
〔演習内容〕 具体的には、①上記のテーマに関する専門的な文献を読み解き、②独自の研究課題を設定し、③その課題に答えるために必要なデータの収集・分析を行い、④得られた知見を学術的な論文の形にまとめ上げることを目指します。履修者には1年間を通じて主体的かつ計画的に取り組む姿勢と高い学修意欲が求められます。 この卒業研究は、経営演習Ⅱと合同で行います(イメージを参照)。したがって、曜日は木曜 3 限となります。履修者はこの時間割を確保してください。後期は個別指導を主体に実施します。 履修者は、自身の卒業研究に取り組みながら、演習では議論や研究報告を積極的に行い、3年生に対して見本となることが求められます。							
〔科目の到達目標〕 ・自らの問題意識を、学術的なテーマの形で設定することができる ・関連する社会科学の文献を検索し、読み解くことができる ・大学生にふさわしい卒業論文を執筆することができる							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学 部				学 科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 とくになし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)							
〔教科書等〕							
〔実務経歴〕							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
前期	自己紹介と報告のスケジュールを決めます。						
春学期	自身の研究計画について、全員が発表します。また、ゼミとは別に各自で研究を進めます。						

秋学期	卒業論文の執筆を進めます。必要があれば適宜個別指導を行います。
期末	締め切りまでに卒業論文を完成させて提出します。 3年生を相手に、自身の卒論について発表します。

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 藤沼 司						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 卒業論文の作成							
〔演習内容〕 現代経営(学)が抱える課題として、①環境問題、②文化多元性の問題、③人間的<生>の問題が挙げられます。これらの領域から、各自、これまでに学んできた諸理論を具体的な諸問題に適用することで、具体的な諸問題(現実)への理論的接近を試みたいと思います。 その他、例年、冬合宿において卒業論文発表会を開催しています。冬合宿は2月最初の土日、ということが多いです。こうしたイベントの企画・運営を通じて、学んだ知識の修得を目指します。オプションとして、地域に飛び出して活動する企画運営も考えています。							
〔科目の到達目標〕 自身で研究課題を設定し、これまでに学んだ諸理論を駆使して、卒業論文の完成を目指してもらいます。 <u>卒論執筆過程で用いられる多様な概念や理論の意味内容、そしてそれらの使用方法を十分に理解することが評価(C)となります。最低限の理解が評価(D)です。</u> <u>そうした概念や理論を、自身で設定した研究課題に当てはめて考えられる(分析できる)ようになるのが評価(B)です。</u> <u>経営学上の概念や理論を用いて、多様な角度から考えたうえで、自分なりの考え(主張)を導けるようになることが評価(A)です。</u>							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 自ら考え、自ら調べ、自ら行動する主体性							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断する。以下①～③は「優先順位の高低」を意味しない。 ① 出席状況、② 演習活動への貢献度(発言、活動など)、③ 卒業論文							
〔教科書等〕 適宜、示します。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
4月 ～ 8月	・テキストの輪読						

9 月	・2・3 年生合同ゼミ合宿(予定)・・・4 年生は自由参加
9 月 ～ 1 月	・各自の卒論の進捗報告、およびそれに基づくディスカッション
2 月	・冬合宿＝卒論発表会(予定) ・合同ゼミ発表会(予定) ※ 時期が変更される可能性あり・・・4 年生は自由参加
試験	・卒業論文の完成および卒業論文発表会での報告

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 行本 雅						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 卒業論文の作成							
〔演習内容〕 各自でテーマを決めて卒業論文を書いてもらいます。							
〔科目の到達目標〕 自分でテーマを設定して、先行研究をレビューし、現実の事象を経営学や経済学のロジックで説明し、自らの主張を論理的に展開できるようになることが目標となります。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
〔前提条件〕 事前に卒論のテーマについて相談すること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 卒業論文で評価します。							
〔教科書等〕 卒業論文のテーマに応じて適宜指定する。							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期	各自で先行研究のサーベイをしてもらいます。						
秋学期	卒業論文を書いてもらいます。また、論文を提出してもらってから、一カ月ほど添削をします。						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 青山 直人 Aoyama, Naoto						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 環境経済学・公共経済学の分野に関する研究。これまで学んだことをもとに各自のテーマについて研究します。							
〔演習内容〕 本研究の目的は卒業論文の作成です。これまで学んだことをもとに、各自研究テーマを設定してもらいます。テーマのもとで、問いの設定、先行研究の調査、分析方法の決定、分析、分析結果の考察を行い、論文としてまとめます。							
〔科目の到達目標〕 卒業論文の完成							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 「ミクロ経済学」「公共経済学」「環境経済学」を履修済みであること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 卒業論文の作成過程(進捗報告)と卒業論文をもとに総合的に評価します。							
〔教科書等〕 戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2022 年。 石黒圭著『論文・レポートの基本—この1冊できちんと書ける！ (新版)』日本実業出版社、2024 年。 その他、配布資料。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4 月 ～ 5 月	テーマ 問いの設定 受講者の興味・関心に応じて研究テーマを設定し、事前調査をしてもらいます。研究テーマについて、現状と課題を報告してもらいます。そのうえで、テーマの絞り込みを行います。						
6 月 ～ 7 月	テーマ 先行研究の調査 卒業論文のアウトラインを作成します。問いに関連した先行研究を調査します。						
8 月 ～ 10 月	テーマ 分析方法の決定と調査 分析方法を決定します。問いに答えるための分析、もしくは調査を行います。						
11 月 ～ 12 月	テーマ 卒業論文の作成 事前調査、先行研究、分析結果(調査結果)をもとに論文を作成します。						

1 月	テーマ 卒業論文の修正 論文へのコメントを基に、追加調査を行い、卒業論文を完成させます。
-----	--

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 大矢 奈美						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 ライフサイクルにおけるリスクや非正規労働者に対するセーフティネットのあり方、 外国人労働者への社会保障関連の支援など、社会保障・労働経済の分野に関する研究							
〔演習内容〕 卒業論文執筆に向け、社会保障制度、高齢者雇用問題、外国人労働者の確保問題など、現在の日本の課題をあらためて考え、その後、各自の当該領域に関する問題意識にしたがって、論文執筆の指導をおこなう。 第 1 段階として、各受講生の興味関心にもとづき、ライフサイクルにおけるリスクとセーフティネット、日本人の働き方の問題といった、社会保障や労働経済の分野に関する文献リストの中から2つ程度選んで小レポートを作成する(4, 5 月、それぞれ1つずつ)。その過程で、卒業論文執筆にむけて各自の問題意識を探るとともに、必要な統計データや資料の収集・活用の方法、加工の仕方などを身につける。 第 2 段階として、各自が問題意識を絞り込みながら、論文作成のための文献収集やデータの収集をおこなう。その上で、論文の構成を考える。 最終段階として、論文を執筆する。 後半は論文執筆に取り掛かる。受講者数によるが、月に2～3回程度、研究の進捗状況について報告する機会が得られるように分担を決め、添削をしながら進めていく予定である。							
〔科目の到達目標〕 自分自身の問題意識をもち、それに応えるための手段、手法を適切に使って論文を仕上げること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 労働経済学、社会保障論を履修していること、あるいは履修すること。この問題について関心があること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 春学期前半のレポートおよび、ディスカッションや報告の姿勢。卒業論文の完成度。							
〔教科書等〕 受講生の問題関心にしたがって、「社会保障制度」、「雇用問題」、「ワークライフバランス」などをキーワードにした文献を選び、提示する。							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4 月～5 月	時事問題について新聞記事や論文等を参照し、ディスカッションをおこなう。 レポートの提出(2 回)						

6月～7月	卒業論文で取り上げるテーマについての絞り込みと時事問題についてのディスカッション
夏休み	各自、設定したテーマに関する文献を読む
9月～10月	問題意識および論文の構成を固めるとともに、文献調査、実態調査を進める
11月～1月上旬	論文の執筆と、途中経過の報告、指導

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 河野秀孝						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 本講義では、卒業論文執筆のための講義であると考えてください。 理論面では、皆さんがミクロ経済学や国際貿易論で、既に履修済みの基本的モデルから出発し、理論モデルの応用側面に焦点をあてます。近年の目覚ましい理論及び実証モデルの発展にも言及し、体系的論理的思考のもとに実証研究のための仮説を導くことが出来るようになることを目指します。 実証面では、皆さんが論理的に導出した仮説の検証をどのように行うかを考えます。 仮説が、自分だけの思い込みでなく、目的としたものの本質を浮き彫りにしているかを、データでもって検証出来るようになることを目指します。 この経済研究は、皆さんがこれまで履修した経済理論の応用で、毎日の経済現象を題材とした体系的論理的思考の訓練として、卒業論文を執筆することです。まず、論文のテーマが問題であり、よく絞り込まれていること。そして、どのような視点から論理の枠組み（モデル）を構築し、どのような方法で仮説の検証をするかを考えることです。							
〔演習内容〕 論文執筆を念頭に、皆さんには以下のことを考えてもらいます。							
1. 日ごろの経済現象を題材として、論文執筆するわけですが、まず何が経済問題として分析の対象になりえるかを考えてみる。							
2. テーマを絞り込むために関係ある過去の文献を読みながら、どこまで研究されていて、どこが未だなされていないのかを明確にするため、問題背景の論文系譜を調べる。							
3. テーマを絞り込み、過去の論文との比較で、執筆論文の位置付け、視点の違いを明確にする。							
4. 独自の視点を反映させた論理体系を構築し、検証可能な仮説を導く。							
5. 必要なデータを収集し、計量的に仮説の検証をする。							
〔科目の到達目標〕 課題・テーマに対して、論理的思考の枠組みとしてのモデルを構築し、卒業論文を完成させること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 経済演習Ⅱを履修済みであること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 成績評価は、定期的なレポートの提出とクラスでの発表に基づき、評価する。 成績評価の基準は概ね以下の通りです。							
〔教科書等〕 資料を適宜配布。また、参考書として、							
1. ハル・Ｒ・ヴァリアン著 佐藤隆三監訳『入門ミクロ経済 [原著第9版]』勁草書房、2015 年。 ISBN 978-4-326-95132-1							
2. ポール・ミルグロムとジョン・ロバーツ（訳 奥野正寛 他）「組織の経済学」NTT 出版、1997 年							

〔実務経歴〕 製造業での実務経験を活かし、私たちの生活の身近な事例を考えながら、経済の諸問題を統一的・体系的に理解・分析できるようになることを目的とします	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
4月から 5月	論文のテーマ探し。
6月から 7月	テーマの絞り込みと、モデル構築。
10月か ら11月	モデルから出てくる仮説の導出と、仮説の検証(計量的検証、歴史的検証)。
12月か ら1月	論文初稿の提出、クラスでの発表。 最終稿の提出。

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 樺 克裕						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 演習のテーマは、担当者の専攻である地域経済学、財政学、地方財政論等に関連する分野を対象に、卒業論文を作成することである。							
〔演習内容〕 卒業論文のテーマについては、基本的に学生自身に選択してもらう。指導の都合上、地域経済学、財政学、地方財政論に関連するテーマを選択することが望ましい。							
〔科目の到達目標〕 自らテーマを選択し、選択したテーマで一貫した論旨で卒業論文を作成すること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 経済演習Ⅰ・Ⅱを履修していること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 適切な論文指導を受けた上で提出された卒業論文で評価します。							
〔教科書等〕							
〔実務経歴〕 旧通産省での実務経験を活かし、消費から生産・政府の行動まで、身の回りのさまざまな出来事に 密接に関係している経済学がどのような学問かを 学ぶ授業です。							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
7月まで	卒業論文のテーマとプロポーザルについて考え、7月末までに提出する。						
9月以降	論文指導を個別で行い、卒業論文を作成し、提出する。						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 木立 力						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 公共政策についての考察							
〔演習内容〕 これまで演習Ⅰ、演習Ⅱや経済学科などの科目で学んだ内容を踏まえて、公共政策に関する興味あるテーマを定め、考察する。							
〔科目の到達目標〕 これまでの学習を踏まえて、自ら設定したテーマについて自分なりの考察を加え文章にまとめる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 経済演習Ⅱなど必修科目を履修済であることが望ましい							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 論理的に分析できるテーマをいかに設定するか。そのテーマに独自の考察を加え、文章にまとめられるか。							
〔教科書等〕 各履修者と面談し文献を探します。							
〔実務経歴〕 費用便益分析を行う研究所での勤務経験あり							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期 前半	論文テーマの候補について各自で考える。						
春学期 後半	考えたテーマの候補について面談し文献、分析目的について考える。						
秋学期 初め	必要となる分析手法の復習						
秋学期 10月～	論文の目的、目次の作成						
秋学期 11月～	執筆、中間発表、個別に適切な頻度で添削指導します。						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 工藤 恭嗣						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 GAFAM(Google, Apple, Facebook, Amazon, Microsoft)など、デジタルプラットフォームを運営する事業者が市場に与える影響については、我が国のみならず世界の競争当局が目を見せ、様々な規制が導入されてきました。本卒業研究では、デジタル経済におけるプラットフォームビジネスについて経済学の視点から接近し、プラットフォームの基本的な経済理論を学ぶことを通じ、ネットワーク効果とビジネスモデル、戦略、市場への影響等について学びます。本卒業研究の参加者は、プラットフォームの設計や政策課題についての理解を深め、事例研究を通じて理論を実践に応用する力を養います。							
〔演習内容〕 発展著しい分野であることから、直接及び間接ネットワーク効果を中心とする基礎的な事項をテーマに、次のとおり進めたいと考えています： ・各テーマについて報告担当者(各班2～4名)を決め、報告担当者はテキストの担当箇所について説明し、 ・報告者以外の参加者も事前にテキストを読んでおき、報告された内容について質問や議論をする。 以上のやり取りを通じてプラットフォームを運営する事業者の行動に関する経済理論の理解を深め、卒業研究の成果として、特定のプラットフォームを運営する事業者の行動、プラットフォームに係る独占禁止法の事例等について経済学的に分析した論文を作成する。							
〔科目の到達目標〕 ・プラットフォームに関する経済学について理解を深めること。 ・論理的思考(ロジック)と説得力ある表現方法(レトリック)の素養を養うこと。具体的には、 →競争政策に関する経済学の学習を通じて、その時点での自分の考えを整理すること(ロジック) →卒業研究内での討論を通じて、自分の考えを他者(ここには未来の自分も含む。)が理解しやすい形で伝えること(レトリック)							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 必須の条件ではありませんが、次の 9 科目を履修済みであることが望ましいです： 情報リテラシーⅠ・Ⅱ、ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、経済数学、計量経済学、実証経済分析、産業組織論、ゲーム論							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 卒業研究への参加(発表、質問等)、作成した卒業論文等に基づき、総合的に評価します							
〔教科書等〕 (テキスト) Paul Belleflamme and Martin Peitz “The Economics of Platforms: Concepts and Strategy,” Cambridge University Press, 2021 (参考書) ・小田切 宏之『産業組織論 ― 理論・戦略・政策を学ぶ』有斐閣、2019 ・石橋 孝次『産業組織 - 理論と実証の接合』慶應義塾大学出版会、2021 ・公正取引委員会 年次報告 (https://www.jftc.go.jp/soshiki/nenpou/)							

・経済産業省 デジタルプラットフォーム (https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/digitalplatform/index.html)	
〔実務経歴〕	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
春学期	・卒業研究を進める上で必要となる産業組織論とゲーム論の復習(生産量決定型/価格決定型の同質財寡占市場や製品差別化を含む寡占市場とナッシュ均衡、企業結合等) ・テキストに沿ってプラットフォームの経済学を学修
秋学期	・引き続き、テキストに沿ってプラットフォームの経済学を学修 ・プラットフォームのビジネスモデルが有し得る競争への制限 ・経験的手法(計量経済学や実証経済分析のほか、必要に応じて数値計算、プログラミング等)のおさらい ・卒業論文のテーマの選定、執筆、発表

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 黄 年宏 コウ トシヒロ						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 ミクロ経済学・労働経済学の分野についての研究							
〔演習内容〕 本卒業研究では、ミクロ経済学・労働経済学の分野だけでなく、学生の興味・関心のある分野において自らテーマ（検証可能な社会・経済の現象や課題）を設定し、経済学の分析方法を用いて、その背後にある経済メカニズムを解明する。さらに、先行研究を参考にしつつ、自らの分析結果に基づいて卒業論文を作成する。具体的には、以下の5つの手順を卒業論文作成の流れとする。 1 テーマは自らの興味に基づいて設定し、新規性、有用性、検証可能性を考慮して研究方向を決める。 2 研究テーマの背景を調査して、問題意識に基づいて仮説や問いを立て、それを調べる。 3 テーマに関連する先行研究を調査・精読して整理する。 4 これまでに学習した理論分析あるいは実証分析の知識を生かして、研究テーマに関する分析を行う。 5 最終的には、研究背景、先行研究、分析方法、分析結果、結論などをまとめた卒業論文を作成する。							
〔科目の到達目標〕 自らの興味を起点に、明確な研究テーマと仮説を設定できる。 先行研究や文献を批判的・論理的に整理し、自身の研究に反映させられる。 経済学の理論・実証手法を用いて、検証可能な分析を計画・遂行できる。 分析結果を踏まえて論理的な結論を導き、卒業論文としてまとめ、発表できる。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 特になし。							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 研究に対する取組み姿勢と卒業論文で指導教員が総合的に評価する。（100%）							
〔教科書等〕 学生の選択したテーマに合わせて適切なものを演習で指示する。							
〔実務経歴〕 該当なし。							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:卒業研究の目的・進め方の説明、学生の関心分野ヒアリング						
第2回	テーマ(何を学ぶか):研究テーマの案出し 内 容:テーマ選定のポイント(新規性、有用性、検証可能性)の確認						
第3回	テーマ(何を学ぶか):研究課題の設定 内 容:問題意識の明確化、研究目的・仮説設定、グループ内での意見交換						
第4回	テーマ(何を学ぶか):先行研究の探し方 内 容:学術論文・新聞記事・政府統計等の文献検索手法と情報整理の方法						
第5回	テーマ(何を学ぶか):文献レビュー(1) 内 容:関連文献の読み込みと要点整理、重要な概念や分析手法をまとめて共有						
第6回	テーマ(何を学ぶか):文献レビュー(2) 内 容:先行研究の限界・課題点の洗い出しと、自分の研究に活かそうな着眼点の確認						
第7回	テーマ(何を学ぶか):研究方法の検討(1) 内 容:比較静学などミクロ経済学の理論をおさらい						
第8回	テーマ(何を学ぶか):研究方法の検討(2) 内 容:回帰分析の考え方、データ処理の基礎をレクチャー						

第9回	テーマ(何を学ぶか): 中間発表準備 内 容: 各自の研究計画を整理し、プレゼン資料の作成を進める(テーマ・仮説・分析手法の方向性確認)
第10回	テーマ(何を学ぶか): 中間発表 内 容: 研究テーマ・仮説・文献レビュー状況などを報告し、フィードバックを得る
第11回	テーマ(何を学ぶか): 追加検討・データ収集(1) 内 容: 中間発表を踏まえた課題修正、公的統計・民間データベース・アンケート調査などの活用法の確認
第12回	テーマ(何を学ぶか): 追加検討・データ収集(2) 内 容: データ収集進捗状況の共有と課題整理
第13回	テーマ(何を学ぶか): 分析ツールの使用 内 容: Excel、SPSS、Eviews、Stata 等での基本集計・回帰分析
第14回	テーマ(何を学ぶか): 分析結果の検討 内 容: 仮説との整合性を検証し、新たな視点や仮説修正の必要性を検討、追加で深掘りする文献の確認
第15回	テーマ(何を学ぶか): 前半まとめ・ミニ発表 内 容: ここまでの成果を簡単に発表し合い、後半に向けて研究の方向性・執筆方針を確認
第16回	テーマ(何を学ぶか): 章立て・構成検討(1) 内 容: 論文全体の基本構成(序論・先行研究・分析方法・結果・考察・結論)を確認し、執筆計画を立案
第17回	テーマ(何を学ぶか): 章立て・構成検討(2) 内 容: 執筆に必要な文献・データ・分析結果を再整理し、各章の分量や執筆順序、締め切りなどの詳細をグループ内または個別に検討
第18回	テーマ(何を学ぶか): 序論作成(1) 内 容: 研究背景・問題意識・仮説を文章化し、論文の導入部分を作成(相互レビューを通じて論旨の一貫性と分かりやすさをチェック)
第19回	テーマ(何を学ぶか): 序論作成(2) 内 容: 前回のレビューを踏まえ、序論を補強・修正。研究目的・論文の流れが明確になるように見直し
第20回	テーマ(何を学ぶか): 先行研究・文献レビュー章(1) 内 容: 関連文献の要点整理、既存研究との比較から自らの研究の位置づけや独自性を文章化
第21回	テーマ(何を学ぶか): 先行研究・文献レビュー章(2) 内 容: 文献の引用形式や論旨の流れ(どのように先行研究が自分の研究を補強するか)を再点検
第22回	テーマ(何を学ぶか): 分析方法章(1) 内 容: 理論分析や実証分析(回帰分析など)の手順を明示し、読者が再現可能な形で書く(使用データ・推定方法・モデル設定を具体的に記述)
第23回	テーマ(何を学ぶか): 分析方法章(2) 内 容: 他者が読んで理解できるか確認しつつ、追加で必要な統計手法や変数定義などを補足
第24回	テーマ(何を学ぶか): 分析結果章(1) 内 容: データをグラフや表にまとめて提示し、初歩的な結果を文章化(仮説との関連性・有意差など、重要ポイントを分かりやすく説明)
第25回	テーマ(何を学ぶか): 分析結果章(2) 内 容: 相互レビューを行い、視覚資料の整理(図表番号やキャプション)や結果の解釈をさらに深める
第26回	テーマ(何を学ぶか): 考察・結論章(1) 内 容: 結果から得られた示唆や社会的意義、研究の限界点、今後の展望を整理し、自分の研究が持つ意義を強調
第27回	テーマ(何を学ぶか): 考察・結論章(2) 内 容: ドラフト全体を通読し、考察と結論が序論や仮説と矛盾なくつながっているかを検証。より明確な示唆に書き直す
第28回	テーマ(何を学ぶか): ドラフト全体の統合・相互チェック 内 容: 発表で得られた意見を踏まえ、レポートや分析を最終調整
第29回	テーマ(何を学ぶか): 最終発表(1) 内 容: 完成に近づいた論文をもとに口頭発表と質疑応答を行う。発表資料(スライドなど)の分かりやすさや時間配分、想定質問への回答などを確認
第30回	テーマ(何を学ぶか): 最終発表(2) & 提出 内 容: 引き続き発表が必要な受講生がいる場合は実施。全員分の発表後、修正点を反映して最終版の論文を提出。最後に総括と今後への展望を共有

〔科目名〕 卒業研究	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 卒業研究科目				
〔担当者〕 七宮 圭	〔授業の方法〕 演習					
〔演習テーマ〕 統計的手法を用いた経済学などに関連するテーマについての実証研究あるいは文献調査等						
〔演習内容〕 卒業研究では、各自設定したテーマについて主体的に「調べ、考え、まとめる」という研究活動を行い、その結果を適宜報告し、最終的に論文としてまとめます。 実証研究の場合には、春学期中に ① 先行研究の調査および整理作業。 ② 研究に使用するデータの入手、整理、分析作業。 を、秋学期中には、 ③ 分析結果の考察。 ④ 論文執筆と修正作業。 という手順を踏んで研究を行う予定です。また、その研究の進捗状況を毎月報告してもらいます。 先行研究などで使用されている高度な統計手法や数式の展開については必要があれば適宜解説します。 実証研究ではデータの入手、整理、分析作業に時間がかかります。遅くとも12月が始まるころまでにはある程度の分析作業が終わっていないと結果を卒業論文にまとめるのは難しいと思いますので、その点を予めご了承ください。 文献調査の場合には、複数の文献を比較しながら読むことで考察を行い、実証研究と同様に毎月進捗状況を報告してもらい、その結果を論文としてまとめます。						
〔科目の到達目標〕 以下の2点を到達目標とします。 ・自ら設定したテーマをもとに、調査、分析、考察ができるようになること。 ・調査、分析、考察の結果を、卒業論文という形で他者に伝えるように、文章化すること。						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○
〔前提条件〕 研究テーマがある程度決まっていること、またその研究において統計分析の手法が必要であること。						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 月ごとの進捗状況の報告と、卒業論文の完成度により評価						
〔教科書等〕 研究テーマや進捗状況によって、必要があれば文献を提案します。						
〔実務経歴〕 なし						

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
春学期	実証研究の場合： ・先行研究の調査および整理作業。 ・研究に使用するデータの入手、整理、分析作業。 文献調査の場合：先行研究の調査および整理作業。
秋学期 (11 月ま でを目 安に)	実証研究の場合：分析結果の考察。 文献調査の場合：先行研究の調査および整理作業。
秋学期 (12月か らを目 安)	論文執筆と修正作業

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 橋本 悟						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 1) 簡単な定量分析・定性分析の手法を学習する。 2) 各自でテーマを決めて、そのテーマについて定量的・定性的分析を行う。 3) 分析結果をもとに卒業論文を作成する。							
〔演習内容〕 前半(春学期)は、分析手法の学習とその知識を用いて簡単な分析を行う。 6 月ごろまでは、最小二乗法などの基本的な定量分析の手法を身につける。その後、各自で研究テーマを決めて、その研究テーマについてデータ収集を行い、そのデータを用いて定量分析を行う。適切なデータが入手できない場合は定性的な分析も検討する。分析結果を考察し、それをプレゼンテーションすることでゼミのメンバーから意見をもらい、それを反映して研究のレベルアップを目指す。 後半(秋学期)は、前半の分析結果を十分に考察して卒業論文を完成させる。前半の研究内容をさらにレベルアップさせて、論理的な流れで文章の作成をする。10 月頃までに分析を終了させ、11 月末を目処に十分な考察を行う。12 月以降は論文執筆に専念する。基本的には、プレゼンテーションを繰り返しながら卒業論文を完成させることになる。また、随時、個別に論文のチェック・指導も行う。							
〔科目の到達目標〕 1) 簡単な定量分析・定性分析の手法を身につける。 2) 定量的・定性的分析ができるようになる。 3) 卒業論文を完成させる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 Word や Excel の基本的操作は必要である。また、ミクロ経済学、マクロ経済学、産業組織論の知識があることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 卒業論文の提出に加えて、分析能力・プレゼン能力なども総合的に評価する。							
〔教科書等〕 使用しない							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
第 1 回	ガイダンス、簡単な経済学の復習						
第 2 回 から 第 5 回	政府や地方自治体の HP などから適切な資料や統計データを入手する。 エクセルを用いて、データを加工して、必要な分析を行う。						

第 6 回 から 第 15 回	個別に分析して、その結果をプレゼンする。 プレゼンに対して議論をする。 議論で得た知見をもとに、内容を改善してプレゼンをする。
第 16 回	ガイダンス 夏休みの課題の確認など
第 17 回 から 第 25 回	個別に分析をして、その結果をプレゼンをする。 プレゼンに対して議論する。 議論で得た知見をもとに、内容を改善してプレゼンをする。
第 26 回	卒業論文の書き方について確認する。
第 27 回 から 第 30 回	個別に卒業論文を作成する。場合によってはプレゼンをして周りの意見を聞く。

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 足達健夫						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 個人プロジェクトの推進とそれをもとにした卒業論文執筆							
〔演習内容〕 前年「知の挑戦 II」での成果をもとに、卒業論文を執筆する。							
〔科目の到達目標〕 ・自分のテーマにおける背景、リサーチ・クエスチョン、研究の目的、手法、成果を説明できる							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 特になし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 上記到達目標に関して随時行う口頭試問により評価する。							
〔教科書等〕 随時紹介する。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
	具体的なスケジュールは授業時に決定する。						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕	
〔担当者〕 生田 泰亮						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 『手足を動かし学ぶ経営経済学』							
〔演習内容〕 (１) 卒業論文 詳細はスケジュール欄 (２) その他 キャリア形成についてのワークショップなど、先輩と後輩との交流会、親睦会など							
〔科目の到達目標〕 ・自身の問題関心をもとに、探究する中で、必要となる理論やデータを収集することができる。 ・自身の考えを文章にまとめ、図表に整理し、構想を描画し、表現することができる。 ・他者に対して、自身の考えを分かりやすく丁寧に配慮し、表現することができる。 ・定められた様式に従い、記述することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 ・「知の挑戦Ⅰ」「知の挑戦Ⅱ」を受講し、単位取得している者。 ・当該科目においても、優秀な成績を修めるべく、努力できる者。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 進捗状況のプレゼン、提出された卒業論文から、総合的に判断する。							
〔教科書等〕 特になし							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期	論文や書籍の渉猟、論文の書き方、質疑応答による研究課題や論理構成の検討。						
夏季 休暇	夏休み終了までに以下の項目を踏まえて報告を行うこと（必須）。 (１) 題目（副題）、(２) 問題意識と研究課題、(３) 章構成（目次）(４) 各章の概要、 (５) 引用参考文献等一覧						
秋学期	随時、論文執筆の指導を行う。 提出締切：地域みらい学科で指定するの期間（12月の第3～4週（予定））。 審査後、加筆修正の必要がある場合は、1月中に再提出を求める。						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 佐々木てる						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 聞き取り調査を中心とした、卒業論文の執筆。							
〔演習内容〕 卒業研究報告、卒業論文中間報告など、卒業論文執筆のための報告を行う。							
〔科目の到達目標〕 みずから問題意識をもち、それに対し自分で調べ、まとめることができること。 聞き取り調査を行うことができ、それをもとに論文の執筆ができること。 みずからの考えを論文という形式を通じて、主張できること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○	○	○		
〔前提条件〕 3 年次、地域みらい学科において佐々木ゼミを履修していること。聞き取り調査の経験があること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 年間を通じた演習の出席、中間報告、完成した卒業論文の内容で総合的に評価する。							
〔教科書等〕							
〔実務経歴〕							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
前期	卒業論文構想発表。 卒業論文執筆における各自の先行研究のまとめ。 それぞれの研究対象への調査と、調査報告。						
夏期休業期間中	それぞれの研究対象にかんする調査 卒業論文中間報告(9 月 予定)						
10 月 11 月	卒業論文の執筆。完成へ。 各自個別指導。						
12 月 1 月	卒業論文提出。 提出した卒業論文の内容報告。						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 三浦英樹						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 演習テーマ「自然地理学と歴史学の視点から自然と人間の関係(環境史)を探り、地域の未来について考える」 ① 現在の人類の位置づけを知り、自然と人間の相互関係について考えること ② 持続可能な社会を作るための自然を生かした技術や文化について考えること ③ 人間がもともと持っていた生態知、在来知、暗黙知の記録・評価を行い、現代社会への活用について考えること							
〔演習内容〕 前年度までに作成した卒業論文の研究課題と研究計画案に沿って論文執筆および口頭発表の指導を行う。							
〔科目の到達目標〕 これまでの講義や演習、フィールドワークの成果に基づいて、自ら問いを立て、問いを解くために必要なデータを収集し、その結果を図表として取りまとめ、論理的に考察を行うことで、立てた問いに答えるかたちで卒業論文を執筆すること。また、その内容を他人にわかりやすく理解できる形で口頭発表を行うこと。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 ・風景(地形)の成り立ちに強い興味がある人、自然が大好きで山や森に出かけたいという志向がある人、自然の成り立ちやそれと関わる人々の歴史や伝統文化・技術に興味がある人、地図を読むのが大好き(になりそう)という人。 ・① 対象とする地域の自然の成り立ちやそれと関わる人々の歴史を明らかにして、それを人にわかりやすく説明しようとする意欲があり、② その知識をどのように、地域の魅力に繋げていくかというアイデア創出を楽しめる人。 ・難しい数学や科学の知識は必要ないが、それらの説明を理解しようと前向きに取り組める人、野外を長時間歩いたり、穴を掘ったり、崖を記載したり、植物を丹念に調べて地図に落とす、顕微鏡観察など、泥臭い仕事を黙々と根気強く行う能力を持っている人。 ・文献をきちんと読んでまとめて発表できる意欲と能力がある人。あるいはそれを身につける努力をいとわない人。 ・夏休みや土日を含めて、長く(あるいは頻繁に)フィールド調査に出られる時間の余裕、フィールドワークに係る経費の自己負担が必要になるので、その余裕がある人。 ・卒業研究の図表作成に必要な「地形を感じる3D地図アプリ『スーパー地形』」(iOS版:960 円、Android版:年間750 円、パソコン版:年間1680 円)を購入してもらうので、それが可能な人。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 卒業論文の内容、口頭発表およびそこに至るまでの取り組み状況にもとづいて総合的に評価する。							
〔教科書等〕 なし							
〔実務経歴〕 なし							

授 業 スケジュール	
時期	テーマと内容
通年	テーマ：卒業研究の報告 内容：卒業論文作成の進捗状況についての報告を行い、研究内容について議論を進める。論文の執筆と口頭発表について指導する。

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 安田公治						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 農業と6次産業化							
〔演習内容〕 実地でのアンケート調査または聞き取り調査から得たデータを活用し、独自に立てた仮説を統計学的に分析を行い、研究論文を執筆する。							
〔科目の到達目標〕 独自に地域の社会経済現象についての仮説を立て分析する能力を身に着ける。 独自にアンケート調査や聞き取り調査の計画を立てることができる。 具体的な地域の課題について、客観的なデータや分析結果に基づいた政策提言を行う力を身に着ける。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) アンケートや聞き取り調査について主体的に質問項目の設定、調査対象者への調査の趣旨の説明を行えているかどうか。 先行研究について詳細に調べられているか。 調査で得たデータを用いて、客観的な結論を導き出せているか。							
〔教科書等〕 新しい農業経済論 ― ミクロ・マクロ経済学とその応用 新版. 山口三十四、衣笠智子、中川雅嗣.(2020). 有斐閣ブックス							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4月～5月初旬	4月初旬に卒業論文テーマを確定。 その後卒業論文テーマに基づいた具体的な研究計画の立案。						
5月中旬～9月	各自質問項目の設定などを含めてアンケート、聞き取り調査の計画を立てる。 9月末～10月中旬までに調査を完了する。						
11月初旬	調査で得たデータの入力、特徴についてまとめ、分析を行う。						
12月～1月	卒業論文の執筆完了、提出。 提出した論文の口頭報告を行う。						

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 長岡朋人						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 1.健康寿命延伸に関する実態の調査と改善案の策定 2.地域の文化財の保全と活用に関する基礎的研究 3.防災に関する聞き取り調査 4.遺跡出土人骨の古病理学的研究							
〔演習内容〕 アカデミックスキルの習得、保健行政や文化財行政の担当者への聞き取り調査、生物統計学の習得							
〔科目の到達目標〕 1.先行研究を渉猟し、論点を整理できる 2.研究デザインの構築とそれに対する適切なアプローチを立案できる 3.データの分析技術を習得し、再現性のある結果を導き出すことができる 4.自身が得た結果を先行研究と比較を行い、考察することができる 5.研究倫理を遵守し、研究によって社会の差別を助長しないようにする							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 課題と卒業論文による評価を行う(中間発表会と卒論発表会を評価に含めることがある)。講義回数の 3 分の1の欠席はF評価とする。							
〔教科書等〕 なし							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
第1回 ～ 第5回	アカデミックスキルの復習 レポートの書き方、先行研究のまとめかたを習得する						
第6回 ～ 第 10 回	研究計画の構築 学生が関心のあるテーマを絞り、適切な研究方法を検討する						
第 11 回 ～ 第 15 回	データ収集と分析 フィールドワークを行い、卒業論文に必要なデータ収集を行う						

第 16 回 ～ 第 29 回	論文執筆と添削 序論、方法、結果、考察、文献の執筆を進める
第 30 回	論文の体裁を整え、卒業論文を完成させる